

# 魅力発信！えひめ農業NOW

令和元年7月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業振興＞愛媛県農業技術情報サービス  
※2 この動向は、7月中に各普及地区から報告のあったものを取りまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

# 「魅力発信！えひめ農業NOW」（7月分）

## 東予地方局地域農業育成室

### ■新居浜市特産品「七福芋」の産地振興に向けて

- 地域農業育成室は、新居浜市大島の伝統作物「七福芋」の栽培技術の平準化と産地拡大を図るため、6月下旬から7月上旬にかけて新規栽培者の圃場で実証圃を設置。
- これは、本年度より若手職員を育成するために実施している「平成31年度プロジェクト型調査研究」を活用しており、マルチの色・株間・施肥量を変え、収量・品質への影響を調査する。
- 圃場はリタイアした地元農業者の荒廃農地を借りたため、除草、鳥獣害対策（ワイヤーメッシュの設置）などの圃場の整備から定植までの一連の作業に対して指導を行った。
- 今年は、約10aの作付けであったが、今後は、大島に点在している荒廃農地の再生を行い、作業時間の短縮を目的に、定植、収穫作業の機械化を農機メーカーと連携しながら作付面積を30aに拡大を目指す。



実証圃設置状況



生産者の畝立て・マルチ張り作業

## 四国中央農業指導班

### ■閉鎖型育苗システムの実証を開始

- 四国中央農業指導班は、「普及組織先導型革新的技術導入事業」を活用し、四国中央市のサラダ野菜栽培農家が、資材を調達しながら低コストで建設する閉鎖型育苗システムと、養液栽培システムの導入を支援。
- 閉鎖型育苗システムは、植物生育用LEDによる照度管理や温度管理等を行い、天候に左右されない健苗を安定して生産するもので、8月に着工（9月完成）予定。
- 7月1日に自然光との苗質を比較するため試験用の育苗システムを作成し、LEDの照射時間（12時間）、照度（15,000ルクス以上）を設定してパクチー、小松菜、グリーンリーフの育苗を開始。
- 小松菜の苗質は、胚軸の長さが対照区（自然光）30mmに対し実証区（LED照射）18mm、葉長は両区とも80mm、葉色（SPAD値）は対象区32.7に対し実証区38.2となり、実証区の苗は対象区に比べ、しっかりとした苗になった。
- 指導班では、今後も生育の状況を確認するとともに、育苗試験を継続しながら同時に約100トレイが自動給水等により育苗できる、自作の閉鎖型育苗システムの育苗技術を確認する。



植物生育用LEDの試作を設置



播種10日後の生育状況

## 東予地方局産地戦略推進室

### ■絹かわなすのステーキやわさび漬けで販売促進

- 産地戦略推進室は、JA西条・イオンリテール(株)・西条市・県等で構成する組織「愛媛県西条市絹かわなす協議会」の活動として販売促進活動を実施。
- 「絹かわなす」の美味しさを知ってもらい、さらに消費拡大を図るため、松山市（6月29～30日）、東京都品川区（7月20～21日）、広島県安芸郡府中町（7月27～28日）の各イオン店舗で、買い物客へ試食として絹かわなすのステーキやわさび漬けをふるまった。
- 試食した買い物客らには好評で、松山・東京ではそれぞれ約300個、広島では約200個の絹かわなすが販売された。



イオンスタイル品川シーサイド店での試食販売

## 今治支局産地戦略推進室

### ■花木ピットスポラムの挿し木試験結果が良好

- 産地戦略推進室では、今年度から管内独自でピットスポラムの苗を安価に確保できる体制を構築するため、挿し木育苗試験を実施。
- 4月にピットスポラム「マウンテングリーン」の枝1300本を、育苗箱に挿しこみ、7月まで経過を観察したところ、平均約7割の高い発根率があり、挿し木育苗試験結果は良好。
- 引き続き、6月や9月挿しの試験と調査を行い、挿し木に最適な時期を明らかにする。



挿し木の様子



発根した枝を3号ポットに雨の中、熱

### ■オリーブ栽培候補地検討会の開催

- 産地戦略推進室は7月25日、新たに大島地域でオリーブ栽培を希望する個人や企業等が複数いることから、今治市吉海町において、市、農業委員会、地元NPO法人、地域おこし協力隊、県等の関係者10名を参集し、栽培候補地の検討を行った。
- 事前に地域おこし協力隊員と県の担当者が現地を回り、大島地域内の耕作放棄地等を地図に転記した資料をもとに、周辺状況、気象条件、土壌条件等を踏まえた栽培候補地となる5団地を選定した。
- 当室では、市やNPO法人等と連携し、栽培を希望する企業等の詳細な意向を確認のうえ、栽培候補地の見学を実施する等のマッチング活動を行い、栽培面積の拡大に結び付ける。



現地確認の様子

## 中予地方局地域農業育成室

### ■中島地区で初の甘平マルドリ栽培に取り組む

- 地域農業育成室は7月5日、中島町長師地区に、実証農家・JAえひめ中央営農指導員・資材メーカーの協力を得て、甘平のマルドリ栽培実証施設（7a）を設置。
- マルドリ施設は中予管内柑橘園に約50a導入されているが、中島地区では初めての試み。
- 甘平は、裂果や隔年結果が栽培上の課題であり、マルドリ施設での点滴（ドリップ）かん水及びマルチによる保水と液肥の施用等により、安定生産が期待されている。
- 地域農業育成室では、調査データを元にかん水や液肥施用の間隔と施用量及び摘果方法等を検討し、地域に合った最適な栽培方法の確立を目指す。



マルドリ栽培実証圃の設置



マルドリシステムの液肥混入器

### ■新居浜市場への取引を拡大 シキミの新たな流通販売の取組み

- 地域農業育成室は、JAえひめ中央しきみ生産部会に働きかけ、今年の盆前出荷から、新居浜市場への出荷量を増やすこととなった。
- 新居浜市場へは、これまででも僅かながら取引があったものの、新居浜圏域のシキミ生産量が激減したことから、市場からの強い要請があり、今回の取組みに至った。
- 同部会では、7月25日に開催された出荷講習会で今年産の販売方針について部会員に周知し、安定供給を申し合わせた。
- 地域農業育成室は、シキミ高品質生産マニュアルを作成し、高品質・安定生産による“売れるシキミづくり”への生産者の意識を高め、産地の維持に努める。



出荷講習会で安定供給に向けて意識統一

### ■若手農業女子の技術力向上に向けて

- 地域農業育成室は7月3日、女性農業者の技術力向上を図るため、中島町で若手女性農業者を対象とした柑橘の摘果講習会を開催。
- 講習会には、新規生産者1名を含む9名が参加し、品種別の摘果方法について、実技を交えながら講習を受け、技術習得に努めた。
- 室内研修では、SNSによる情報共有グループの作成を行い、相互の情報伝達や共有方法を確認するとともに、今年度計画している他地区（興居島、東温地区）との交流や先進地事例研修について協議した。



雨の中、熱心に摘果技術を学ぶ



SNSの活用方法等について活発に意見交換

## ■シキミの調製作業を農福連携で 産地の取組みを普及が後押し

- 地域農業育成室は7月25日、シキミの調製作業において農福連携による労働補完について、JAえひめ中央及びしきみ生産部会員、地元東温市内の福祉事業所を交えて、打ち合わせを実施。
- 当日は、生産者が作業の工程や留意事項等について実演を交えて説明するとともに、施設利用者が対応できるか、具体的な作業日程・時間、工賃等について検討した。
- 施設側から、できれば実施したいとの前向きな返答を得ることができ、今後、JAが中心となり、具体的な実施に向けての作業を進めることとなった。
- シキミの調製は、単純ではあるが手間がかかる作業で、高齢の生産者が多く家族労働だけでは出荷量が制限されているため、農福連携による労働補完を進めることで、今後の出荷量の増加が期待される。



調製作業の説明を聞く施設担当者

## 伊予農業指導班

### ■（農）ななおれ梅組合と就労支援施設が農福連携の可能性を検討

- 伊予農業指導班は、（農）ななおれ梅組合が実施する梅干し用のシソの加工作業について、高齢化による人手不足が懸念されていることから、労働補完の手段として、砥部町内の就労支援施設との農福連携による作業委託について検討を行った。
- 7月10日に同組合加工場に施設担当者2名を招き、作業の内容を確認。その結果、施設利用者でも作業が可能であることから、組合員とともに作業時の留意点及び従事時間、送迎方法、工賃などについて意見交換を行った。
- 同就労支援施設では、農業を含めた施設外就労の実施を計画しているところであり、農業指導班では、引き続き相互の理解を深めながら、農福連携を図る。



農福連携が期待されるシソの加工作業

### ■中山栗“高収益モデル実証技術”の普及啓発

- 伊予農業指導班は7月17日、中山栗産地力向上促進事業（地方局予算）で栗の技術実証を行っている“高収益モデル実証圃”12園地に普及啓発用の看板を設置。
- モデル実証圃の、①農薬散布 ②緩効性肥料の施用 ③低樹高剪定等の技術について説明しており、収量等の成果も掲示している。
- 昨年度の産地全体の平均収量が30kg/10aと不作の中、モデル圃の平均収量は167kg/10aと一定の収量を確保できたことにより、周辺農家の関心が高まってきており、今回の看板設置を契機に、さらなる技術の普及を図る。
- さらに、今年度は“10a当たり収量200kg”を目指した啓発パンフレットを作成・配布し、産地力向上に向け農家の意識改革を進める。



高収益モデル圃に看板を設置

### ■専門家と連携して若手農業者の法人化を支援

- 伊予農業指導班は、農業経営サポートセンターと連携し、松前町若手農業者4人に対し、法人化に対する支援を実施している。
- 5月に実施した司法書士による株式会社設立相談に続き、7月5日には社会保険労務士を招いて、社会保険や雇用保険等の仕組みについての説明を行った。
- 8月には株式会社設立後の経営計画を検討するため、中小企業診断士による経営分析を予定しており、9月の株式会社設立に向けて引き続き支援する。



社会保険労務士との相談会

## 久万高原農業指導班

### ■農業公園研修生に対するトマト現地学習会を開催

- 久万高原農業指導班は7月18日、農業公園研修生5名に対する現地学習会を開催。
- これは、栽培技術や経営手法の習得のため、年10回程度行っている研修の一環として実施したもの。
- 当日は、病気の見分け方とその防除方法や、生育診断手法について実物を用いて説明。
- 研修生からは、農業に頼らない病害の予防方法や、梅雨明け前後の草勢の維持管理などの質問があり、技術習得への意欲が感じられた。



熱心に説明を聞く研修生

## 中予地方局産地戦略推進室

### ■甘平の安定生産に向けた実証試験を開始

- 産地戦略推進室では、甘平の生産安定に向けた隔年結果抑制対策の現地実証を、7月から施設栽培4園地で開始。
- 昨年度、大枝別の隔年交互結実を実施した供試樹では、本年産の着果状態も良好な樹が多いことから、実証農家やJA担当者への関心は高く、引き続き、同結実法による連年安定生産の実証を目指す。
- 中予管内の本年産甘平は、表年回りで生産予想量は約896t（前年比164%）。果実の初期生育は良好で、甘平単独での講習会を新たに開催するなど、高品質果実の生産に向けた産地の機運も高まっている。
- 産地戦略推進室では、今後、裂果対策の現地実証を追加し、実証データの解析を進めながら、甘平の安定生産に向けた総合的な栽培技術の普及を図る。



甘平の現地講習会（北条地区）

### ■パクチーの夏季安定生産に向けた実証試験を実施

- 産地戦略推進室と地域農業育成室は、パクチーの周年安定生産を図るため、中予管内の標高

の異なる圃場で、品種比較や各種資材を活用した実証試験を実施。

○高単価が期待されるが気温が高く栽培が難しい夏季については、標高 500mの久万高原指導班内の圃場で実証しており、6月24日播種分については、梅雨による曇天の影響はあったものの7月30日現在、草丈16~18cmと順調に生育しており、8月中旬の収穫を予定している。

○また、この日は2回目の播種作業を行い、地温抑制のため白黒ダブルマルチのほか、タイベックや寒冷紗等の処理区を設置し、発芽率や生育、品質等を確認し効果を検証する。



6月24日播種のパクチー



2回目の播種作業（7月30日）

## 南予地方局地域農業育成室

### ■宇和島地区の福祉事業所と農福連携について意見交換

○地域農業育成室は7月10日、西予市宇和文化会館で開催された福祉事業所の「合同説明会 in なんよ」で、各事業所の農業就労について聞き取りを行った。

○宇和島圏域から参加した13事業所と意見交換し、過去に「みかんの収穫作業」や「水田の草刈り作業」、「イチゴのヘタ取り作業」などに農業従事した事業所も多くみられた。

○しかし、就労場所のバリアフリー化や年間を通じた仕事の確保等の課題があり、事業所からは働きやすい労働環境整備を求められた。

○今後も引き続き農作業の労働不足を補うため、農業者とのマッチングを支援するとともに、労働環境の整備を行い、農業と福祉事業所と連携を促進する。



福祉事業所の相談コーナー

### ■三間町の認定農業者が「ひめの凜」の導入を検討

○地域農業育成室は7月10日、三間町の認定農業者5人に対し、ひめの凜の研修実施。

○「ひめの凜」栽培について参加者の関心は高く、過去の食味官能評価の結果で特A相当を取得していることや収穫量が多いこと、高温耐性があることに注目し、「来年から栽培を始めてみたい」との意見が多くあった。

○地域農業育成室では、「ひめの凜」の栽培面積、生産量を拡大するため、関心のある水稻栽培農家や農事組合法人を中心に新たな栽培者を発掘する。



「ひめの凜」研修の様子

## 鬼北農業指導班

### ■キウイフルーツ花粉事業組合が花粉ビジネスのスケジュールを確認

- 「松野町キウイフルーツ花粉事業組合」の組合員会が7月16日に開催され、関係者9名が参加して事業の進捗状況の確認や今後のスケジュールについて協議がなされた。
- 会議では、国内の花粉を一手に扱う「株式会社アグリ」への視察研修の報告や、「次世代につなぐ果樹産地づくり推進事業」を活用した施設の設置等について協議した。
- 鬼北農業指導班は、今後も関係機関と連携し、質の高い花粉の生産技術の普及や、精製・保管・販売を行う松野町農林公社との一体的な取組みにより、キウイ花粉の産地づくりを展開する。



キウイ花粉事業の取組みを検討

### ■栗の大規模高収益栽培モデル園の山林伐採に着手

- 鬼北農業指導班は、「普及組織先導型革新的技術導入事業」を活用して栗の大規模高収益技術の実証モデル園設置のため、地元の農業法人が山林の伐採に着手した。
- 指導班は、7月18日の入札により選定された地元建設業者に対し、施工スケジュールと作業手順及び自動かん水システムの詳細や、水源及び山頂の貯水槽に設置する水位と降雨を感知するセンサー類の設置方法等について説明を行った。
- また、指導班は、園内道や灌水用の配管類等の設置のため、苗木の定植位置を決める5m間隔で印を付けたロープと品種毎に色を変えたテープを巻いた竹（同園から伐採した竹を利用）を450本準備し、樹木の伐採作業に合わせ、園地の造成指導を開始した。



事業着手前の山林



伐採作業の様子



色テープを巻いた竹

## 愛南農業指導班

### ■女性農業者が加工品開発セミナーを開催

- 愛南農業指導班は7月18日、愛南生活研究協議会及び愛・レディースネットの組織会員や関係者計23名を対象に、6次産業化への理解を深めることを目的に加工品開発セミナーを開催した。
- 愛南町では、「柑橘営農環境改革プラン」に沿った農産物加工場の建設計画があり、今後、町内事業者等を中心とした6次産業化推進協議会が設立されることとなっている。
- セミナーでは、愛南町出身で発酵美生活研究所山下所長から、発酵食品といった今後の加工品トレンドの紹介や、加工品製造でネックとなるフードロスの削減に向けた取組みについて提案がなされた。
- 指導班では、女性農業者らを対象として6次産業化への機運を高めるとともに、地域特産



河内晩柑発酵食品の試食

の河内晩柑等を使用した新たな加工品開発の支援や情報提供を図っていく。

### ■かんきつ新品種導入に向けた青年農業者の取組み

- 愛南農業指導班は7月3日、愛南地区青年農業者協議会会員7名を対象に、将来を見据えた経営展開に向け、かんきつ新品種研修会を開催した。
- 当日は、「愛媛県における新品種育成の取組について」と題して、みかん研究所岡本主任研究員が講演し、「愛媛果試第48号」(紅プリンセス)など有望品種の育成過程や特徴について学んだ。
- 会員からは、栽培上の課題について多くの質問が出されるなど、新品種への関心が高く、導入に向けて意欲的であることから、指導班では栽培技術や経営能力の向上を目的とした講習会を定期的で開催し、青年農業者の経営安定に向け支援する。



品種育成について学ぶ  
青年農業者

## 南予地方局産地戦略推進室

### ■株式会社玉津柑橘倶楽部の6次産業化を支援

- 産地戦略推進室が、県事業「愛媛県6次産業化チャレンジ総合支援事業」の計画作成を支援した(株)玉津柑橘倶楽部(代表取締役 原田亮司、15人)は、7月5日に同事業を採択され活動を開始した。
- 同社は、宇和島市玉津地域で生産された温州みかんや河内晩柑を使ったジュースなどの加工品の製造販売を通して「玉津みかん」の認知度向上を図るとともに、昨年度の豪雨災害からの復興と産地の活性化につなげたい考え。
- 同室は、販路開拓のため8月に東京ビックサイトで開催される「アグリフードEXPO東京2019」への出展についても協力。今後も新たな加工品開発や県内外への販促活動の支援を行う。

## 八幡浜支局地域農業育成室

### ■清見の長期貯蔵における新資材の提案！

- 地域農業育成室は、3月14日から7月11日まで清見の長期貯蔵に新資材(防曇フィルム)を用いた試験を実施。
- その結果、現技術で発生する貯蔵臭は、新資材を用いることでほぼ抑制することができ、腐敗果の発生も半分以下となることが分かった。
- 実証結果を基に三崎共選と協議し、新資材の導入に向けて継続調査を実施するとともに、今年度は出荷前の農家倉庫で、新資材を用いた試験を新たに実施することとなった。

職 氏名/技師 岡田 聡一郎

## 大洲農業指導班

### ■ピオーネの着色促進にキュアリング処理の効果を確認

- 大洲農業指導班は、地方局予算事業「ぶどう産地力向上促進事業」において、ぶどうの品質向上を図るための実証圃を設置。
- 今年度は、ピオーネの着色促進を図る目的で、剥皮のほかにキュアリング処理（樹皮部から木質部まで環状に鉢を入れ、水の流れは遮断せずに師管部を切り離し、光合成生成物の果実への転流量を増やして着色を促進させる処理）を実施。
- キュアリング処理は、剥皮処理に比べ樹勢衰弱のリスクが低く、剥皮と同等の着色促進効果が確認できた。



幹へのキュアリング処理(6月12日)



左：キュアリングあり 右：なし（同樹、7月25日）

## 八幡浜支局産地戦略推進室

### ■ニラ生産拡大に向け学校跡地利用開始

- ニラの産地化に取り組む窪農集落営農組織（西予市城川町）は、出荷調整作業のため野村高校土居分校跡地施設の利用を開始した。
- この組織は、窪野地区の農業者5名で構成され、地区内の高齢者を雇用して出荷調整作業を行ってきたが、手作業のため人手と場所が必要であることから、ニラ栽培規模拡大に向けて学校跡地を利用するようになった。
- 産地戦略推進室と西予農業指導班は、今後ニラの生産拡大・周年安定供給に向けて、隣接するガラス室を活用したニラ生産方法の検討・推進を行う。



土居分校跡でのニラの出荷調整作業

### ■柑橘輸出拡大促進を検討

- 産地戦略推進室は7月19日、ブランド戦略課、JAにしうわ、生産者と柑橘の台湾輸出促進に向け、今年産果実の生産状況確認及び台湾で使用できない農薬に対する代替農薬の選択・効果について検討した。
- 現在、施設越冬温州1人、施設甘平4人が輸出に向け培に取組んでおり、甘平圃場において開花期の高温により腰高傾向の園が一部あるものの、生育は全般に順調である。
- 国内向け防除指針に掲載された薬剤のうち、台湾での残留農薬基準がないものについて、効果が確認されている代替剤を選択・決定し、台湾輸出向け生産を徹底した。
- なお、台湾へのお荷果実については、品質確認・流通販売状況調査を2回実施することとし、生産者各1名が参加することになった。



柑橘輸出意見交換

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543